



Sun Fire™ V490 サーバー ご使用にあたって

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 817-7472-17
2007 年 8 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2007 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします)は、本書に記述されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents>に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, Java, AnswerBook2, docs.sun.com, SunSolve Online, SunVTS, OpenBoot, Sun StorEdge, Jump Start, Sun Fire は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK, OpenBoot, JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPENLOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植の可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法(外為法)に定められる戦略物資等(貨物または役務)に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典:	Sun Fire V490 Server Product Notes
	Part No: 817-4193-17
	Revision A



Sun Fire V490 サーバーご使用にあたって

本書では、Sun Fire™ V490 サーバーに関連する最新情報について説明します。

関連マニュアル

Sun Fire V490 サーバーに関するすべてのオンラインマニュアルは、次の URL で参照できます。

<http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Servers>

このサイトを定期的にチェックして、このマニュアルの最新版を含む、Sun Fire V490 製品のマニュアルの最新版を確認してください。

プリインストールソフトウェア

Sun Fire V490 サーバーには、Solaris™ オペレーティングシステム (Solaris OS) および Java™ Enterprise System ソフトウェアがプリインストールされています。プリインストールされたソフトウェアの使用方法については、次の URL を参照してください。

<http://www.sun.com/software/preinstall>

2100 MHz のシステム要件

2100 MHz の CPU/メモリーモジュールを搭載した Sun Fire V490 システムは、2100 MHz UltraSPARC™ IV+ プロセッサの追加の電源をサポートするようにアップグレードされた状態で出荷されます。2100 MHz システムのソフトウェア要件およびハードウェアアップグレードの詳細は、『Sun Fire V490/V890 Systems with UltraSPARC IV+ 2100 MHz CPU/Memory Modules Supplement』を参照してください。このマニュアルは、次の Web サイトからオンラインで参照できます。

<http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Servers>

ソフトウェアおよび OpenBoot ファームウェアの要件

表 1 に、1050 MHz および 1350 MHz の UltraSPARC IV CPU/メモリーモジュールと 1500 MHz、1800 MHz、および 2100 MHz の UltraSPARC IV+ CPU/メモリーモジュールに必要な OS および OpenBoot™ PROM (OBP) ファームウェアの最小バージョンを示します。

表 1 オペレーティングシステムおよびファームウェアの最小バージョン

CPU/メモリーモジュール	オペレーティングシステム	ファームウェアバージョン
1050 MHz	Solaris 8 2/04	OBP 4.15.1
	Solaris 9 4/04	OBP 4.15.1
	Solaris 10 3/05	OBP 4.15.1
1350 MHz	Solaris 8 2/04	OBP 4.15.6
	Solaris 9 4/04	OBP 4.15.6
	Solaris 10 3/05	OBP 4.15.6
1500 MHz	Solaris 9 9/05	OBP 4.18.1
	Solaris 10 3/05 HW1	OBP 4.18.1
1800 MHz	Solaris 9 9/05	OBP 4.18.8
	Solaris 10 3/05 HW1	OBP 4.18.8
2100 MHz	Solaris 9 9/05	OBP 4.22.24
	Solaris 10 3/05 HW1	OBP 4.22.24

注意 – 2100 MHz の CPU/メモリーモジュールを装備したシステムでは、**version 4.22.24** 以降の OBP を使用してください。これらのシステムに以前のバージョンの OBP をロードすると、システムが起動不能になります。

サーバーに適切なバージョンのオペレーティングシステムがインストールされていることを確認するには、`/etc/release` ファイルを調べてください。このファイルに「`Solaris X X/XX`」という文字列か、**Sun Fire V490** システムと互換性のある **Solaris** リリースを示す文字列が含まれていることを確認します。

サーバーに現在インストールされている **OpenBoot** ファームウェアのバージョンを特定するには、次のいずれかの方法を実行します。

- **Solaris** オペレーティングシステムの動作中に、次のコマンドを入力します。

```
# /usr/sbin/prtconf -v
```

- または、`ok` プロンプトから次のコマンドを入力します。

```
ok .version
```

OpenBoot PROM の診断操作の拡張

version 4.15 以降の OBP では、拡張診断機能が提供されており、電源投入時にデフォルトで有効になります。これらの診断機能により、**Sun Fire V490** サーバーの起動にかかる時間が長くなることがあります。また、これらの診断機能は、サーバーに関する情報を検出して報告するいくつかのアプリケーションの動作を変更します。

たとえば、OBP 診断が有効の場合、`rsc-console` 接続からの出力は、警告メッセージもなくサーバーコンソールに送信されます。このとき、**RSC** コンソールは **RSC** コマンドに応答していないように見えます。**Sun Fire V490** サーバーのフロントパネルのキースイッチが診断位置に設定されている状態で、`rsc-console` 出力を表示している場合にも、このように動作することがあります。

また、診断は起動時のサーバーの LED の動作も変更します。電源投入時自己診断 (POST) の実行中は、電源 LED とシステム障害 LED が同時に点滅します。POST が完了して OBP 診断が実行されると、LED は通常の動作に戻ります。

これらの拡張機能、新規および再定義された構成変数、および新しい標準 (デフォルト) 構成の詳細は、『**OpenBoot PROM Enhancements for Diagnostic Operation**』を参照してください。このマニュアルは、**Sun Fire V490** サーバーに付属の **Sun Fire V490 Documentation CD** に収録されています。

ソフトウェアパッチ

この節では、使用している Sun Fire V490 サーバーで必要になる場合があるソフトウェアパッチの一覧を示します。これらのパッチは、ご購入先から入手するか、次の SunSolve OnlineSM Web サイトからダウンロードできます。

<http://sunsolve.sun.com>

パッチのインストール手順については、各パッチに添付される README ファイルを参照してください。次のバージョンの Solaris OS のパッチを、このあとに一覧で示します。

- Solaris 10 OS のソフトウェアパッチ
- Solaris 9 OS のソフトウェアパッチ
- Solaris 8 のソフトウェアパッチ

注 – サーバーにプリインストールされていたバージョンの Solaris 10 OS を使用する場合は、プリインストールされていたソフトウェアの Web サイトを参照してください。

<http://www.sun.com/software/preinstall>

この節のパッチ情報は、別のバージョンの Solaris 10 OS を手動でインストールした場合、または Solaris 9 をインストールした場合に、適用されません。

Solaris 10 OS のソフトウェアパッチ

Solaris 10 に必要なソフトウェアパッチの一覧を確認するには、『Solaris 10 Sun ハードウェアマニュアル』を参照してください。

Solaris 9 OS のソフトウェアパッチ

表 2 に、Sun Fire V490 サーバーにインストールされている Solaris 9 4/04 OS の必須パッチおよび推奨パッチの一覧を示します。

表 2 Solaris 9 OS がインストールされた Sun Fire V490 の必須パッチ

パッチ ID	説明
必須パッチ:	
112233-12 以降	SunOS 5.9: kernel パッチ
112817-17 以降	SunOS 5.9: SunGigaSwift Ethernet 1.0 ドライバパッチ
111847-08 以降	SAN Foundation Kit パッチ (MPxIO/leadville)*
113039-04 以降	SunOS 5.9: Sun StorEdge Traffic Manager パッチ*
113040-06 以降	SunOS 5.9: fctl/fp/fcp/usoc ドライバパッチ*
113041-04 以降	SunOS 5.9: fcip ドライバパッチ*
113042-04 以降	SunOS 5.9: qlc ドライバパッチ*
113043-05 以降	SunOS 5.9: luxadm、liba5k、および libg_fc パッチ*
113044-04 以降	cfgadm パッチ*
113447-13 以降	SunOS 5.9: libprtdiag_psr パッチ
117171-05 以降	SunOS 5.9: kernel パッチ
115553-10 以降	SunOS 5.9: USB ドライバおよびフレームワークパッチ
推奨パッチ:	
116363-07 以降	RSC 2.2.2 パッチ

* パッチ 111847、113039、113040、113041、113042、113043、および 113044 には、パッケージ SUNWsan (SAN Foundation Kit) が必要です。SUNWsan パッケージは、次の Sun Download Center から入手できます。

<http://www.sun.com/storage/san/>

このサイトから、最新の SAN リリースのソフトウェア/ファームウェアアップデートをダウンロードしてください。

Solaris 8 のソフトウェアパッチ

表 3 に、Solaris 8 02/04 OS がインストールされている Sun Fire V490 サーバーに固有の必須パッチの一覧を示します。これらのパッチは、このマニュアルの発行時点で入手可能なものです。

表 3 Solaris 8 OS がインストールされた Sun Fire V490 サーバーの必須パッチ

パッチ ID	説明
必須パッチ:	
109873-25 以降	SunOS 5.8: prtdiag およびプラットフォーム libprtdiag_psr.so.1 パッチ
109896-25 以降	USB ドライバパッチ
110460-32 以降	SunOS 5.8: fruid/PICL プラグインパッチ
110614-02 以降	SunOS 2.8: ses ドライバパッチ
111095-15 以降	SunOS 2.8: fctl/fp/fcp/usoc ドライバパッチ*
111096-08 以降	SunOS 2.8: fcip ドライバパッチ*
111097-14 以降	SunOS 2.8: qlc ドライバパッチ*
111412-13 以降	SunOS 2.8: Sun StorEdge Traffic Manager パッチ*
111413-12 以降	SunOS 2.8: luxadm、liba5k、および libg_fc パッチ*
111792-09 以降	picl プラグインパッチ
111846-08 以降	SunOS 2.8: cfgadm パッチ*
111847-08 以降	SAN Foundation Kit パッチ*
111883-24 以降	SunOS 5.8: GigaSwiftEthernet ドライバパッチ
116962-01 以降	pcisch ドライバパッチ
推奨パッチ:	
117255-01 以降	RSC 2.2.2 パッチ

* パッチ 111095、111096、111097、111412、111413、および 111846 には、パッケージ SUNWsan (SAN Foundation Kit) が必要です。SUNWsan パッケージは、次の Sun Download Center から入手できます。

<http://www.sun.com/storage/san/>

このサイトから、最新の SAN リリースのソフトウェア/ファームウェアアップグレードをダウンロードしてください。

ハードウェアの問題

この節では、Sun Fire V490 サーバーに関連するハードウェアの問題について説明します。

ファントレーはホットプラグ対応でないため、システムの動作中に取り外さない

CPU ファントレー (FT 0) および PCI ファントレー (FT 1) は「ホットプラグ対応」の部品ではないため、システムの動作中にはどちらのファンも取り外さないでください。ファントレーのホットプラグを行うと、システムのハードウェアに損傷を与える可能性があります。システムの電源が入っているときにファンを取り外そうとすると、怪我をする危険性があります。

M6 ねじを使用する必要があるキャビネットへのサーバーの取り付け手順

M6 ねじを使用する必要があるキャビネットにサーバーを取り付ける場合は、『Sun Fire V490 サーバー設定およびラックマウントの手引き』の手順に従ってください。この手順の 10-32 ねじを使用している場所で、ラックマウントキットボックスに入っている M6 ねじを使用します。M6 ねじには、プラスのねじ回し (Phillips の 2 番) を使用してください。正面トリムパネルに 10-32 脱落防止機構付きねじが付いている場合は、サーバーをキャビネットに取り付ける前に、そのねじを M6 ねじに交換します。

サーバーと SC カードのシリアル接続には、シールド付き RJ-45 ケーブルを使用する

Sun Fire V490 サーバーの出荷キットには、専用のシールド付き RJ-45 ケーブルが 2 本含まれています。サーバーおよび SC カードのシリアル接続の設定には、このケーブルを使用してください。

ソフトウェアの問題

この節では、Sun Fire V490 サーバーに関連するソフトウェアのさまざまな問題について説明します。

Sun Management Center ソフトウェアのサポート

Sun Fire V490 システムをサポートするには、Sun Management Center の Version 3.5 Update 1 以降が必要です。Solaris 10 OS が動作している場合は、Sun Management Center のパッチ 118389-07 に加えて、Version 3.5 Update 1b をインストールする必要があります。特にシステムに新しい CPU/メモリーモジュールを取り付ける場合は、どのバージョンの Solaris OS でも、関連する Sun Management Center のすべてのパッチをインストールする必要があります。

Sun StorEdge Traffic Manager ソフトウェア

Sun StorEdge™ Traffic Manager ソフトウェアは、複数のプラットフォームでのマルチパス I/O フェイルオーバー、フェイルバック、および SAN 環境全体での負荷分散を自動化します。また、このソフトウェアによって、動的なデータベースの構成を行うこともできます。このソフトウェアは、基幹となる SAN 環境での、入出力性能の改善、可用性の向上、および管理時間の節約に役立ちます。

Sun StorEdge Traffic Manager ソフトウェアの詳細、機能のインタラクティブツアー、および使用する環境に適した製品の価格の確認および購入については、次の Web サイトを参照してください。

http://www.sun.com/storagetek/management_software/resource_management/traffic_manager/

制限事項

この節では、Sun Fire V490 サーバーに関連するバグおよび例外事項について説明します。多くの場合、これらのバグを修正するソフトウェアパッチが提供されています。入手可能なパッチの情報については、SunSolve Online Web サイトにアクセスするか、ご購入先にお問い合わせください。詳細は、4 ページの「ソフトウェアパッチ」を参照してください。

また、使用しているリリースの Solaris OS のハードウェアマニュアルも確認してください。そのハードウェアマニュアルには、Sun Fire V490 サーバーに影響する可能性がある OS 関連のバグに関する情報が記載されています。

OpenBoot ファームウェアのマニュアル

ファームウェアの使用方法については、『OpenBoot 4.x Command Reference Manual』を参照してください。このマニュアルは、次の Web サイトの「Sun ハードウェア対応 Solaris」から入手できます。

<http://docs.sun.com>

Sun GigaSwift Ethernet Adapter のマニュアル

『Sun GigaSwift Ethernet Adapter Installation and User's Guide』(Part No. 816-1702-11) には、Sun GigaSwift Ethernet UTP アダプタと Sun GigaSwift Ethernet MMF アダプタの取り付けおよび使用に関する情報が記載されています。また、このマニュアルでは、システムの Ethernet デバイスドライバソフトウェアの設定方法についても説明しています。

このマニュアルには、`/platform/sun4u/kernel/drv` ディレクトリに `ce.conf` ファイルを作成する方法が記載されています。これは、Sun Fire V490 サーバーのオンボードネットワークインタフェースを設定する場合に推奨される方法です。

注 - `/etc/system` ファイルを使用した Sun GigaSwift Ethernet アダプタドライバのパラメータの設定は、サポートされていません。

このマニュアルは、次の Web サイトから入手できます。

http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Network_Connectivity/index.html

